

日本ロマンチック街道という道路があることを忘れていました。これは長野県上田市から群馬県を抜け、栃木県日光市までの全長約320km を通過する広域観光ルートからなる街道とのことです。友人の北軽井沢の山荘は群馬県長野原町にあり、ロマンチック街道である国道 146 号線沿いです。国道 146 号線はやがて、東に曲がり、145 号線になり、吾妻渓谷沿いに進みます。山荘から 30 分位車で走ると、吾妻渓谷方面に下ることができます。吾妻川は利根川の上流になるため、関東地域の水源地といっているのかもしれませんが。ここにハッ場ダムが建設されています。地元住民の反対、ダムの必要性や、経済効果の可否などをめぐり、一度建設が中止になったこともあり、衆目を集めていたハッ場ダムは 2020 年 3 月に完成予定とのことです。ダムの建設工事の様子や、水没する流域を一度見たいと思っていましたので、今回出かけました。ロマンチック街道の科学技術部門でしょうか。



ハッ場ダム建設の計画は 1947 年に利根川の堤防が決壊したことを受けて始まりました。(1)洪水対策、(2)都市用水の供給、(3)流水の正常機能維持、(4)発電という四つの目的のもとに、調査され、吾妻渓谷に開設することが 1995 年に決まりました。工事が始まったのは 2015 年です。

吾妻渓谷は渓谷美に富み、温泉郷でもあるとのことです。この部分を残しつつ、ダム建設工事が急ピッチで進められています。吾妻渓谷は岩盤が固いので、ダムに適していると言います。長野原町と東吾妻町の境付近で、川の堤を長さ290.8mに渡り、高さ116m、幅10数mのコンクリートの壁で封鎖します。吾妻線の川原湯温泉駅あたりまでの、8kmの流域がダム湖になるそうです。このダムで水没する家屋は470世帯とのことです。工事の中断もあり、費用がかさみ、総事業費が5320億円とのことです。ダム本体の工事費はこの 10 分の1ですが、賠償、付帯事業が大きく嵩みます。数字に弱い私はこの税金が国民の安全と公益に利するのか、妥当なのか、ピンとは理解できません。建設工事の技術革新もあったかもしれませんが。公共事業ですから、潤った人々がいることも事実でしょう。

夫の郷里の八坂川は、山地を抜け、田畑や集落の地域を通り、市街地へ、そして守江湾に流れます。田畑の中を蛇行して流れていましたから、いったん豪雨となると、氾濫し、農業に大きな被害がでました。両親は母屋と蔵の間の通路を轟轟と水が流れたとその時の恐怖を話してくれたことがありました。やがて治水事業が始まり、川がまっすぐに流れるように、川幅を広げ、護岸されることになりました。夫の実家はこの工事の対象地区内にありましたので、賠償を受け、立ち退くことになりました。公共事業はそのような犠牲がつきものです。

ハッ場ダムの見学ツアーには、40名ほどの人々が参加し、水没する地域を眺めながら、世界初の最新鋭技術による大工事、壮大な景観、作業員の昼夜を問わない労働など、説明を受けました。凄い！と感心するだけでなく、複雑な心境になりました。岩盤で固いとはいえ、水の力は侮れませんし、土砂も堆積していくでしょう。つい先日、西日本では豪雨により、川の堤防が決壊し、山では土石流が発生し、水害となり、230人余の命が犠牲になりました。異常気象であると言われますが、例年このような悲劇は続いています。この地に住む人々の幸せと、この流域の人々の安全を祈らずにはおられません。科学技術が私たちをどのように幸せにしてくれるのでしょうか。